

イヌワラビ *Anisocampium niponicum* (Mett.) Y.C.Liu, W.L.Chiou et M.Kato  
メシダ科 Athyriaceae

1. 利用可能部位：葉柄、中肋

2. 組織形態：

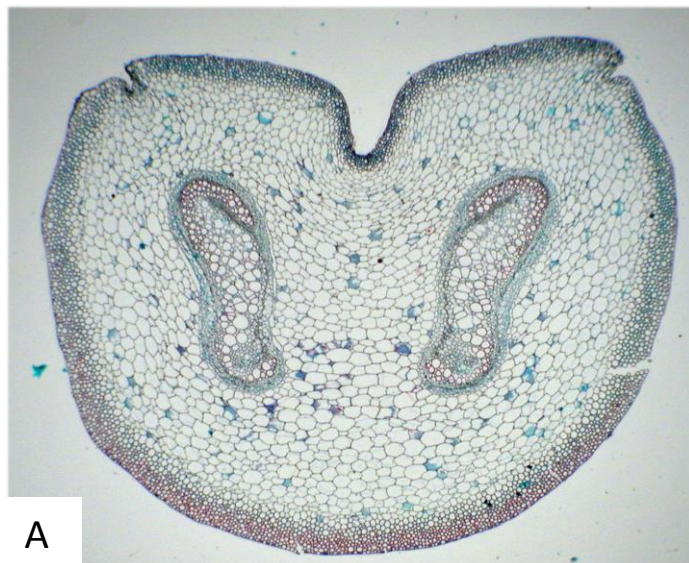
葉柄基部の断面は葉の上面が平らな潰れた円～楕円形で、葉柄上部では上面に一对の稜が発達し、中央の溝は深くなる。上面中央に浅い溝がある。表皮は平滑で、比較的柔らかい。下表皮は径が小さく細胞壁が多少とも厚い柔組織で、4細胞層程度。維管束は葉柄基部では2本で上端の木部は向軸側に巻き込み、タツノオトシゴ型になる。維管束は葉柄上部では2本の維管束が背軸側で繋がり、一本となる。向軸側の両「肩」に当たる部分に通気孔条がある。

3. 利用例：知られていない

4. 遺跡出土遺物：知られていない

図説明

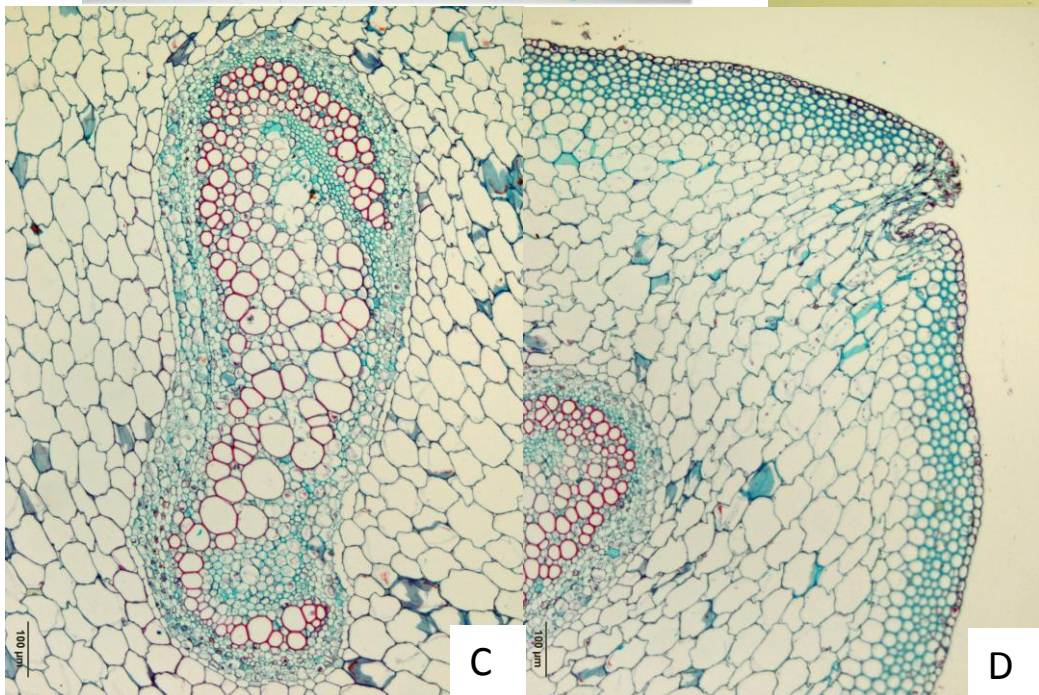
A:イヌワラビの葉柄基部の横断面。上面はほぼ平らな楕円形で表面中央はやや深くへこむ。左右に大きな維管束がある。B:葉柄上部の横断面。上面に高く飛び出た稜が1対あり、その間は深くへこむ。下部で2本だけ維管束は合体して1本の盃状となる。C:葉柄下部の1本の維管束の拡大。上端はタツノオトシゴの頭のように折り返し、下端は尾のようになっている。C:表皮～皮層部分の拡大。表皮、下表皮とも細胞壁はあまり厚くない。通気孔条の部分は薄壁の細胞で出来ていて、潰れやすい。



A



B



C

D